

# 入鹿小だより

～わくわく登校・ニコニコ下校～

熊野市立入鹿小学校  
校長 樋口 佳洋  
平成 30年 6月 15日  
第 5 号

## 楽しかった修学旅行 ～奈良・大阪への3日間～

6月6日から8日に5・6年生が奈良・大阪方面への修学旅行に行ってきました。入鹿小学校では修学旅行は2年に1回しか行っていません。修学旅行がない年は、熊野少年自然の家で宿泊体験学習をするのですが、今年は修学旅行の年です。また、これまではバスに乗って移動していたものが、今年から人数の関係で鉄道による移動となりました。

初日は雨模様の中、JR熊野市駅からワイドビュー南紀に乗っての出発です。家の方に見送っていただき元気に出発し、最初の目的地、奈良（東大寺）をめざしました。奈良について昼食が終わるころには雨が上がり、傘なしで東大寺内を散策することができました。大仏様を見上げては、その大きさにビックリ。その大仏様がスッポリ入る大仏殿。さすがに世界最大級の木造建築ですね。その後、海遊館を見学し、初日終了です。



2日めは、朝から天気がよく、暑い日となりました。まず阿倍野防災センターで地震体験や消火体験をしました。行く道では「あべのハルカス」の下を通って行ったのですが、屋根があって高さが分かりません。しかし、少し離れたところからはその全貌を見ることができました。さすが日本一高いビルでした。



次は子どもたちが大好きなUSJです。絶叫マシンOKチームとNGチームに分かれての行動です。OKチームはいくつか絶叫マシンを体験しましたが、人気のあるものは待ち時間が長く、列で待つだけで疲れてしまったところもありました。夜のパレードまで見ることができ、2日めは終了です。

楽しい修学旅行もあっという間に最終日です。この日は大阪市立科学館へ行きました。科学の不思議を実際に目にし、手にしながらの体験できる学習です。手回し発電機を、全身を使って回したり、不思議な鏡に自分の姿を写したり、楽しく科学の勉強をすることができました。

ケガをしたり病気になったりすることなく、楽しい思い出をいっぱい持ち帰り、無事に熊野へ帰ってきました。



## 派遣前の研修会

私たち派遣教員は、赴任先が決まった後、派遣前研修なるものを受けなければなりません。世界中に約 1,200 人の教員が派遣されており、任期は原則 2 年ですが、結果として 3 年派遣が多いので、1,200 人の 3 分の 1、つまり 400 人が毎年入れ替わるわけです。それらが一堂に会して研修を受けます。その場で、同じ学校に派遣される者同士も初めて出会います。私の場合も、同じ年に派遣された長野県出身の先生と、この研修会で初めて出会いました。

派遣に際しては、どの国や地域へでも行く覚悟ではいますので、面接などでは「世界中のどこへ派遣されても構いません」とは言うものの、内心は「欧米やアジアの近いところだといいな」などと無意識のうちに思ってしまうのですかね。欧米やアジアの近い地域に派遣される教員は何となく誇らしくしているように見受けられます。それに対し、南米やアフリカに派遣される教員はというと、ややうつむき加減に見えてしまいます。（これらは私の勝手な想像ですのでまちがっているかもしれません。）若い子どもを連れて赴任される方もいます。医療機関の充実度や生活環境が心配でしょうから、それも無理もないのかもしれないね。

かく言う私の派遣先は、南米はブラジル、アマゾンのだ真ん中のマナウス日本人学校。しかも 5 歳の娘も同伴。普通に考えればうつむき加減で派遣前研修を迎えるところですが、そんなことは全然ありませんでした。その理由はまた次回に説明します。

私の前任校の校長先生もペルーのリマ日本人学校への派遣経験があり、同じ南米組です。ふたりで派遣前研修の話をしたとき、私と同じことを感じていたとのことでした。ところがもうひとつ同じように感じたことがありました。それは帰国後のことです。任期を終え日本に帰国するとき、文部科学省へ帰国報告をしに行くのですが、その時の様子は欧米組より南米組の方が堂々としていてと文部科学省の担当者から聞いたことがあるというのです。実際私たちは、堂々と帰国報告をした覚えがあり、お互いにいい所へ派遣させてもらったねと、うなずき合いました。

派遣前研修は 2 月に行われ、これを境に派遣に向けての出発の準備が具体的に始まります。研修以降、現地の学校と直接連絡を取り合ってもよく、学校紹介ビデオを送ってもらったり、アパートを決めたりしながら情報を集めるうちに、出発への期待が一段と膨らんでいきます。勤務校での仕事もこなしながらの準備は大変でしたので、4 月の出発までの間は本当にあっという間に過ぎていってしまいました。今年のように 3 月末に満開を迎えた桜を見ることができたことが、忙しさの中でホッとできた一瞬でした。

